

令和 6 年 1 月 31 日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…地域密着型介護老人福祉施設 ゆうなぎホーム

サービス種類…地域密着型介護老人福祉施設

会議開催日…令和 6 年 1 月 31 日

開催場所…ゆうなぎホーム交流ホール

出席者

事業所	3 人	利用者	人
利用者家族	1 人	地域代表者	3 人
松江市職員	1 人	包括支援センター	1 人
知見を有する者	人	その他 ()	人

議事

① 運営状況について (R 5 年 12 月 31 日現在)

- ・入居者数 26 名 (男性 2 名・女性 24 名)
- ・平均介護度 3.6
- ・平均年齢 89.5 歳 (男性最高年齢 90 歳 女性最高年齢 102 歳)
- ・空室状況 3 室
- ・入退去状況 令和 5 年度の状況
入居 9 名 退居 8 名
- ・新型コロナウイルス対策

② 事業所からのお知らせ

- ・ホームの風景
 - クリスマス会
 - お正月

③ サービス運営に関する意見・要望について

<包括>

- ・面会の話があったが、包括にここの施設ではないが、面会ができないことによる苦情があった。対応が施設によりさまざまであり、家族さんにどこまで納得していただくか、しっかりと情報を伝えてほしい。

<利用者家族>

- ・窓越し面会では、意思の疎通が難しいと感じている。しかし家族としては施設で病気が広がるのが心配であり、仕方ないと思っている。コロナがなくなることを望んでいる。

<施設>

- ・面会の対応等は嘱託医と相談しながら実施している。現在も職員は週 3 回簡易検査を実施し、感染を持ち込まない対策に取り組んでいる。クラスター

を経験したことによりなかなか思い切った対応ができないでいる。

<地域住民>

- ・島根町の利用者さんはどれくらいの割合おられるのか。

<施設>

- ・松江市からの入所もあり 8割程度が島根町出身である

<事業所>

- ・能登の地震があり、ここは海拔 8m程度。それ以上の津波が来るとどうするべきか。1分で到着する津波に対してはどうすることもできないのが実際である。現地の施設の状況も聞こえてきているが、断水、停電、職員も被災そういった状態でどう動くべきか、研修を行っている。

<地域住民>

- ・ここは福祉避難所になるのか

<施設>

- ・現在はまだである。が実際に施設が被災した状況であれば何ができるのかと考える。

<利用者家族>

- ・大規模災害が起きれば間違いなくここは陸の孤島となる。津波、土砂崩れ等地域柄心配な所である。職員さんも大変であり負担をかけないようにと希望する。

<地域住民>

- ・要介護 1 の人も入所されているか。

<施設>

- ・特例入所の要件に合った方が入所されている。

<包括>

- ・特養は特例入所の受け入れを断られることが多い。また身寄りのない方も受け入れが困難であり困っている。

<地域住民>

- ・研修で他の県で身寄りのない人たちがグループを作ってお互い最後まで面倒をみあう。という話を聞いた。そういった状況にあることに驚いた。

<施設>

- ・施設としては、身寄りのない方、身元引受人のない方は、医療的な判断であったり、本人の判断ができなくなった時の対応が難しいと考える。しかし、社会福祉法人としての役割を果たさなくてはとの考えもあるが、現在の介護保険制度の状況ではとても厳しいものがある。

※事業所確認欄

<input type="checkbox"/> 活動報告についての評価を受けることができたか。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 要望・助言等受ける機会を設けたか。	<input type="radio"/>